



東 陵



第23号

福岡県立嘉穂東高等学校同窓会報

発行／令和2年11月 飯塚市立岩1730の5 嘉穂東高等学校同窓会

さらなる発展に「エール」

誇りある母校の

歴史と伝統に「感謝」

祝 百十周年。





ごあいさつ 東陵23号の発刊にあたって

嘉穂東高等学校同窓会 第9代会長

花田 正 (高校23回生)

秋も深まり、季節の花々が咲く時節となりました。赤や白のヒガンバナ、色とりどりのコスモス、そして、ケイトウ、キンモクセイ、キク等。秋の花々は、夏が厳しい暑さだったにもかかわらず、昨年と同様に咲き誇っています。

一方、人間社会は、去年の様態から一変し、新型コロナの感染を防ぐため、行動の自粛・制限が今でも求められています。会いたい人にも会えなかったり、感染を恐れバスや電車を利用することを控えておられる方々が多数おられます。特に3密を避け、会話をするにもマスクが必要です。マスク越しで見えない表情を推察しながらの会話では、分かり合える会話が十分にはできていません。人と人とのつながりや顔と顔を見合わせた普段の会話の大切さが、より認識されていることです。また、あらためてこれまでの普通の生活のありがたさをしみじみと感じています。

先日の同窓会総会、規模を縮小しての総会でしたが、無事に総会を実施・終了できました。そして、その際の役員改選により、会長に就任しました23回生(昭和46年卒)の花田です。2年前に副会長として、役員会の中に参加させていただいて、今度、いきなり会長ということで、早すぎる会長就任に戸惑っております。3万人ちかくの同窓会会員のおられる中、また、これまで御尽力なされ、多くの御功績をあげられてきた歴代の同窓会会長の後を引き継ぐということになり、その重責を改めて痛感しております。

本年は新型コロナのため、全国的にあらゆる行事が中止となりました。それに伴い、4月から6月にかけて行われてきた各支部総会も中止となりました。本部の同窓会総会においても、その後の懇親会は中止とせざるを得なくなりました。今年の当番回生(49回生)は、「最高の同窓会を!」との思いで、早い時期から準備し、用意周到、志高く活動していたことを思うと残念でなりません。来年、力をあわせ素晴らしい同窓会懇親会を達成してくれることを期待しております。

また、百十周年という記念すべき年であったにもかかわらず、盛大に行えなかったことも非常に残念で仕方ありません。その困難の中、百十周年記念行事を実施していただいた学校その他関係者に感謝いたします。今回の東陵は、懇親会が中止・延期になり、読んでいただける同窓生の方々の数が少なく、

在校生が主流を占めているということで、私の高校時代の思い出について、少し触れたいと思います。

高校時代の思い出は、体育祭・マラソン大会・各種行事と多々あるのですが、不思議なことに、私は、ある授業風景が強く印象に残って目に焼き付いているのです。夏の暑い日のことです。数学の先生が、「おい、人類が月面に立ったぞ」と興奮されながら教室に入るなり話を始められました。今まで、この数学の先生は、授業で数学のことしか話されなかったもので、生徒一同はびっくりしながらその話を聞いていました。授業の半分近くを割いて、先ほどテレビで見た月面着陸の状況を話されました。1969年のアポロ11号のことです。私は、その出来事より、授業中にそんなに興奮して話をする先生に興味を覚えていました。なにしろ、私たちは、「鉄腕アトム」で育った世代です。人類の月面着陸なんか時間の問題だと思っていました。

ところが、今考えてみますと、やはりエポック的なことだったことになります。なぜなら、それ以降、人類は衛星や惑星に踏み立ったことはないのです。よく「はやぶさ」のことが話題になりますが、人工衛星は着陸していますが、人は着陸していないのです。そんな、歴史的事実があるからかもしれません。私の記憶の中に、その光景が今も残っているのです。

さて、在校生の皆さんには、五十年後、いったいどんなことが、高校時代の記憶として強く残っていることでしょうか。「コロナのために、部活動の試合が中止になり、いい思い出はなかった」とか、「授業のスピードが速すぎて、付いていけなくなった」というマイナスの思い出ばかりでは、哀しいものです。「いろいろな行事が中止になったけれど、体育祭が出来て良かった」とか「休校で、学校や友達の良さに気付かされた」といった良い思い出を今からでもどんどん創ってください。

全国で活躍されている会員の皆様方の中にも、このコロナ禍により、経済的・精神的に困難な状況におこまれている方々がおられることと思います。「ピンチはチャンス」「止まない雨はない」といった格言にもありますように、プラス思考でこの困難を乗り切ってください。

最後に、至らない点多々あるかと存じますが、会員の皆様には引き続きご協力をお願い申し上げますと共に、皆様の御多幸と御健勝をお祈り申し上げご挨拶と致します。



ごあいさつ

福岡県立嘉穂東高等学校 校長

甲斐 直樹

「嘉穂高等女学校・嘉穂東高等学校同窓会総会」の開催、誠にありがとうございます。また、日頃から母校に対して、あるいは卒業生に対して物心両面にわたるご支援をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

私は、昨年に引き続き嘉穂東高校にお世話になっております、甲斐 直樹と申します。今年で教員生活38年目、来年の3月には定年退職を迎える予定です。教員生活の最後を生まれ故郷の筑豊の地で終えることの喜びをかみしめながら、郷土の未来を担う人材の育成のために果たすべき高等学校教育の役割と責任を自覚し、子供たちによりよい教育を提供できますよう、力を尽くしてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

今年は、「新型コロナウイルス感染症」の拡大により、3か月近い臨時休校がありました。友達とも会えない、スポーツや文化に触れる機会も少ないといったストレスに加え、授業もなく、就職や進学、入試がどうなっていくのかという不安を覚える日々が続きました。

学校は再開したものの、新入生の体験活動・野球定期戦・文化祭、部活動の公式試合やコンクール等も余儀なく中止となり、学校がワクワクする場所ではなくなってしまうのではないかといった危機がありました。

しかし、学校も次第にコロナ禍を前提とし、感染症対策の徹底を図りながら、いかに子供たちに教育の場を保障していくかという方向に舵を切っていきました。そのような中で、去る9月13日に百十周年記念体育祭を開催しました。競技種目や開催

時間の削減・短縮、保護者等の入場制限などさまざまな制約の中、また嘉穂東高校の全校生徒で取り組む最初で最後の行事となりましたが、生徒たちは工夫を凝らし“START THE NEW HISTORY”のスローガンのもと、成功裏に終えることができ、高校生活の一つの区切りをつけることができました。この自信を糧として、110年の歴史に誇りを持ち、未来に向かって、大きな夢や志を抱いて、新たな歴史を創り上げていこうという意欲につなげていきたいと思います。

我々学校教職員は、同窓会の皆様と、良好な関係のもと、お互い知恵を出し合い、子供たちにとってより良い教育環境を提供し、嘉穂東高校が発展し続けることを大きな使命であると自覚しております。「伊藤が寄付した学校がつまらぬものと言われたくない」という伊藤傳右衛門氏が残された言葉を胸に刻み、「清純 礼節 理智 勇気」の校訓の具現化を目指して、さらに教育の充実に努めてまいり所存です。

最後になりましたが、今後も母校に対する一層の御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方のますますの御健勝と、嘉穂高等女学校・嘉穂東高等学校同窓会のますますの御発展を祈念申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。

期日：2020年10月23日（金）

会場：母校体育館

嘉穂東高等学校創立 百十周年記念式典

コロナ禍での開催ということで、生徒は3年生のみの式典となりました。同窓会役員とPTA役員の出席のもと、創設者、伊藤傳右衛門氏に改めて感謝の意と敬意を表わし、母校のさらなる発展を願い、小規模ながらも厳粛に執り行われました。



同窓会から母校への支援

同窓会では会員（卒業生）と準会員（在校生）からの年会費を収入源として、大切な浄財を有効に活用させていただいております。その中で母校教育活動への支援も行っており、今回、百十周年記念事業として、吹奏楽部練習場の整備、楽器の購入、保健室の整備、体育館の暗幕を寄贈しました。



吹奏楽部練習場



保健室



体育館（1階）の暗幕



保健室



吹奏楽部楽器

飯塚市花いっぱい運動 参加しました！

令和2年6月10日（水）17時00分飯塚市花いっぱい推進協議会の皆さんからお声掛けいただき、花植えボランティアに参加しました。本校からはボランティア部と陸上部の18名が参加し、飯塚高校女子バスケットボール部の皆さんと一緒にJR 新飯塚駅西口ロータリーの花壇で作業を行いました。

青空の下、農家の方が大切に育てた色鮮やかな花々を一つ一つ丁寧に植えました。駅を利用する人たちが花を見て、明るく幸せな気持ちになってもらえたら嬉しいです。暑い中ご指導いただいた飯塚市都市計画課のみなさん、本校同窓会長の藤江文雄様、ありがとうございました。



体育祭

テーマ：『万理一空』

2020年は様々な学校行事が中止となる中、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で、創立百十周年記念体育祭を開催いたしました。

「目的、目標を忘れずに団結して、最後まで頑張る」という意味。創立百十周年の今年、歴史に残るような、今までにない最高の体育祭を作り上げ、成功させたいとの思いが込められています。ポスターは生徒自らが作成しました。



▲創立百十周年記念体育祭のポスター
※令和2年9月12日が雨のため、13日に順延。

Fukuoka Prefectural



Kahonigashi High School

嘉穂東高校のレポートです。
現在の学校の様子です。



嘉穂東高校 母校の動き



令和2年度 教職員の異動

【転 出】

(副校長) 稲富 広 博多青松高校へ
(国 語) 川上 明美 鞍手高校へ
(数 学) 麻生 晋扶 嘉穂高校へ
(保健体育) 田中 誠士 スポーツ科学情報センターへ
(事務主事) 宮崎 貴行 直方高校へ

【転 入】

(副校長) 重村 郁夫 福岡農業高校より
(数 学) 蒲池 宏彰 城南高校より
(英 語) 京堂 政美 福岡魁誠高校より
(国 語) 板井 智裕 新規採用
(事務主事) 菅 円哉 嘉穂東高校定時制より

卒業生進路実績 ※合格者延べ人数

第72回生(令和2年3月卒業)

○国公立大学	7名		
福岡県立大学	3名	福岡教育大学	1名
北九州市立大学	1名	宮崎大学	1名
鹿児島大学	1名		
○私立大学	180名 他		
西南学院大学	9名	福岡大学	19名
中村学園大学	3名	九州産業大学	69名
○私立短期大学	16名		
○看護系専門学校	22名 他		
麻生看護大学校	5名		
福岡県私設病院協会看護学校	3名		
○医療系専門学校	14名		
○その他の専門学校	57名		
○公務員	66名		
国家公務員	6名	刑務官	6名
海上保安官	1名	福岡県職員	3名
飯塚市職員	2名	嘉麻市職員	1名
その他の市町職員	4名	消防士	3名
航空学生	2名	自衛官	38名
○民間就職	6名		



生徒会の動き

■新旧生徒会役員

今年は創立百十周年記念式典を新旧生徒会役員と一緒に準備させていただきました。

この日を節目に新生徒会役員にバトンタッチしました。新スローガンのもと、頑張っていきます。



▲写真は新旧生徒会役員が揃って、百十周年記念に全校生徒で作った手形(各自の夢や願いを書いたもの)の前で撮ったものです。

■令和2年度～3年度 生徒会スローガン

One Era One Adventure One STart
生徒会スローガン 2020.10.1～2021.9.30
～切り開け、新たな時代～

このスローガンは、「One(たった一つの)」という言葉に「Era(時代)」、「Adventure(冒険)」、「STart(始まり)」を合わせることで、自分たちにしかつくり上げることができない、新しい嘉穂東高校の時代を切り開くために、何事にも挑戦していくという意味が込められています。また、「Era」、「Adventure」、「STart」の頭文字を読むと、「EAST(東)」となります。更に、令和3年度は本校の創立111周年ということもあり、「One One One(111)」と表現をしました。

中学生の体験入学

令和2年9月25日(金)の14:00～16:00、本校にて中学生の体験入学が行われました。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策として、全体会は行わず、できる限り各中学校毎に会場を分けたり(但し、英語科は多数の中学校からの参加希望者がいるため、大教室1会場にて実施)、保護者会場は別に設けたりしながらの実施となりました。

それでも、中学生441名、保護者133名など、合わせて600人弱の方々にご参加いただきました。

参加された中学生の皆さんが、来年度の進路先として嘉穂東高校を選び、入学してくださることを期待し、お待ちしております。

